

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	C型肝炎	AABB Weekly Report 2017:23(18) Sharp Increase in Incidence of HCV Attributable to Injection Drug Use	米国において、注射剤の使用は新規C型肝炎ウイルス(HCV)感染症の主要リスクである。
2	C型肝炎	AABB Weekly Report 2017:23(18) HCV Infection Rate Surges to 15-Year High	疾病対策予防センターの新たな予備的監視データによると、HCVの新規感染者数は15年間で増加し、2010年から2015年では3倍に達したことが判明した。当該センターによると、これは主に、米国でのオピオイド蔓延に関連した注射薬剤使用増加の結果であった。
3	C型肝炎	CDC online News room(May 11, 2017)	HCVの新規感染は若年層の間で急速に増加しており、20歳から29歳において総感染者数が最も多い。これは、主に、米国のオピオイド蔓延に関連する注射薬剤の使用が増加した結果である。
4	C型肝炎	ProMED-Mail 20170428.5002070	Massachusetts州の15歳から29歳の人々において報告されたHCV感染症例は、2002年から2013年の間に137%増加した。BMC Infectious Diseases誌に発表された報告によると、最も高い有病率は、Fitchburg、Holyoke及びCape沿岸など過疎地域を含む3地域において確認された。最も深刻な地域では、2002年から2013年までに1平方マイル当たり1000症例が報告された。Bostonでは、合計11508例が報告された。
5	C型肝炎	ProMED-Mail 20170430.5004619	Minnesota州における2016年の性感染症例は過去最高に達したが、当該州保健局の専門家らは、別の動向として、オピオイド乱用の蔓延及び静注薬剤注射の乱用に関連するHCV感染症の急増について懸念している。2016年の新規HCV感染症例は、Minnesota州保健局により51例確認された。当該症例数は、1998年以降の1年間に確認された最多新規感染症例数である。
6	C型肝炎	ProMED-Mail 20170513.5034250	米国保健当局者らによると、ヘロインの蔓延によりHCV感染症も増加しており、20代において増加が最大となった。新規感染症例数は、5年間に約3倍となり、2015年では約2400例であった。当該ウイルスは、薬物注射針の共用により拡大し、その増加はヘロイン使用の急増と一致した。HCV感染症の治療法及び伝播を阻止する既存の予防的措置にもかかわらず、新規HCV感染症は近年増加している。注射薬剤の使用は、新規HCV感染症の主要なリスク要因である。米国内のHCVの発生率は、2010年から2015年までに294パーセント増加した。
7	C型肝炎	ProMED-mail 20170523.5045592	米国では推定350万名がHCVに感染している。最近の監視データによると、主に郊外在住で注射剤使用歴を有する白人青少年及び成人間において、HCV感染率の増加を示した。HCV母体感染の増加は、米国で発生するヘロイン及び処方オピオイド蔓延の増加と一致しており、また郊外在住の白人集団で増加しているという、結果に偏りのある影響を与えてきた。妊婦のオピオイド使用が近年急増している。HCV感染は、歴史的にはヘロインの使用に関連してきたが、Indiana州郊外における最近のHIV及びHCVのアウトブレイクは、これらの感染が注射可能な剤形の処方オピオイド使用によっても伝播する可能性があることを示している。
8	C型肝炎	ProMED-mail 20170523.5056188	Pierce郡における急性及び慢性C型肝炎の症例は、若年層の間で劇的に増加している。Washington大学のAlcohol and Drug Abuse Instituteは、Pierce郡を含むWashington州全土における18の針交換プログラムの調査結果を検討したところ、ヘロインを注射した患者は69%、メタンフェタミンを注射した患者は22%であった。CDCによると、HCVの新規感染は5年間で3倍になり、オピオイド蔓延に大きく左右された。CDCによると、薬物を注射した若年層でC型肝炎の罹患率が最も高く、年間のC型肝炎新規症例数の75%を占めている。
9	E型肝炎	ProMED-Mail 20170426.4996999	フランスにおいて豚肉を喫食した男性1例からの献血により、オーストラリアにおいて6歳男児1例がE型肝炎ウイルス(HEV)に感染した。当該例は、オーストラリアにおいて献血を介したHEV感染の最初の確定例である。2014年、当該男児は、肝移植手術時に使用された血漿から当該ウイルスに感染したが、約6ヶ月後の2015年初旬まで発症は確認されなかった。オーストラリア赤十字社血液局は、当該男児が受けたすべての献血18単位の保存サンプルを検査し、1サンプルがHEV陽性であることを確認した。献血前に症状を呈していなかった当該ドナーは、フランス南部において豚肉を喫食していたことが判明した。

ID	感染症(PT)	出典	概要
10	E型肝炎	Transfusion. 56(2016)2535-2537	北米、欧州、中東及びアジアにおいて、血漿分画製剤の製造用プール血漿について、HEV RNAについて調査した結果、北米、欧州及びアジアのプール血漿においてHEV RNAが検出されたが、中東においてはHEV RNAが検出されなかった。また、アジアのプール血漿においては、変異型を含むジェノタイプ4のHEVが同定され、北米及び欧州においてはジェノタイプ3のHEVが同定された。
11	E型肝炎	Transfusion. 57(2017)258-266	供血血液のスクリーニング検査によるHEV感染防止に係る費用は、オランダにおける他のスクリーニング検査と比較し過度に高額ではない。しかし輸血によるHEV感染症例は、全感染症例のごく一部であるため、血液のスクリーニング検査がHEV疾患全体に与える影響は限定的である。
12	E型肝炎	Transfusion. 57(2017)267-272	輸血と食事によるHEV感染の相対リスクを推定した。輸血による感染リスクは、多量の成分製剤による輸血を必要とする免疫不全患者においてのみ、食事によるリスクを上回った。
13	E型肝炎	第64回日本ウイルス学会学術集会 (2016.10.23,24,25)	下北半島のニホンザルにおけるHEVの疫学調査。下北半島のニホンザルから血清検体122サンプルを収集し、ELISAによるHEV抗体を測定した結果、8.2% (10/122)の検体がOD450値0.2以上を示した。HEV抗体は老齢のオスで検出される傾向にあり、ヒトにおける疫学情報と酷似していた。
14	インフルエンザ	ProMED-mail 20170102.4761669	2016年12月16日、WHOはカナダにおけるインフルエンザ(H3N2v)のヒトの確定例1例の通知を受けた。本症例は発症前に農場で病気のブタに曝露していたことが確認された。
15	インフルエンザ	CDC/MMWR 66(2017)668-676	米国における2016年～2017年シーズン中、3例の新型インフルエンザAウイルスのヒト感染が報告された。1例目はIowa州で報告されたインフルエンザA(H1N2)変異型(H1N2v)ウイルス感染であった。2例目は北米系鳥インフルエンザA(H7N2)ウイルス感染であった。これは感染したネコの呼吸器分泌物へ長期間暴露したことによる。ネコを介したインフルエンザAウイルスのヒトへの感染が知られるのは初めてである。3例目はインフルエンザA(H7N2)変異型(H3N2v)ウイルス感染であり、発症の前週に農業イベントでブタに接触したことが報告されている。
16	インフルエンザ	http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_02_14_2017.pdf?ua=1	インフルエンザの報告(2017年1月17日～2月14日)。本報告期間中、中国において、ヒトの鳥インフルエンザA(H7N9)感染の検査確定例305例が報告された。2017年2月14日時点で、少なくとも死亡380例を含むH7N9のヒトの検査確定例の合計1223例がWHOに報告されている。イタリアにおけるインフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)感染のヒトの症例報告が、2017年2月2日にEurosurveillance誌上で発表された。患者は、2016年10月に重度の急性呼吸窮迫症候群を発現した男性1例で、養豚場でブタとの接触があった。
17	鳥インフルエンザ	CDC/MMWR 66(2017)254-255	中国における2016年10月～2017年2月の5度目の鳥インフルエンザA(H7N9)流行における、鳥インフルエンザA(H7N9)ウイルスのヒト感染の増加に関する報告。鳥インフルエンザA(H7N9)の5度目の流行で報告されたヒト感染は460例で、これまでの4度の流行(1度目:135例、2度目:320例、3度目:226例、4度目:119例)におけるヒト感染と比較して大幅な増加を示している。一部の限定的なヒト-ヒト伝播は継続して確認されているが、持続的なH7N9のヒト-ヒト伝播は確認されていない。
18	鳥インフルエンザ	https://wwwnc.cdc.gov/travel/notices/watch/avian-flu-h7n9	2017年1月16日時点で、中国の保健当局は、2016年9月以降に鳥インフルエンザA(H7N9)のヒトへの新規感染症例120例を確認したことをWHOに通知している。これらの患者の大多数が生きた家禽や家禽市場への曝露を報告した。少数の鳥インフルエンザA(H7N9)の症例は中国本土以外で報告されているが、これらの感染の大多数は発症以前に中国本土に旅行したヒトにおいて発生している。
19	ウエストナイルウイルス感染	Transfusion. 2017 Feb 5. doi: 10.1111/trf.14018.	米国において、ウエストナイルウイルス(WNV)についてミニプール核酸増幅検査陰性かつ無症候であった供血者からの輸血を受けた患者が、WNVに感染した。供血者30名のうちの1名は、採血3～5日後に体調が悪くなり、WNV用のウイルス性症候群と診断されていたが、米国赤十字には報告がなされず、当該供血者の血漿が患者へ輸血されていた。患者が蚊媒介でWNV感染した可能性はあるが、輸血によるWNV感染が疑われるとの報告。
20	狂犬病	ProMED-mail 20170125.4786220	インドにおける狂犬病の報告。インドのMaharashtra州Aurangabad districtのヒト80例が、狂犬病に感染したイヌに咬まれたウシの牛乳を摂取した後に、病気になったことが、当局より発表された。2017年1月21日、多数のヒトが嘔吐及び悪心を訴えた際に、このインシデントが明らかになった。症例は治療中であり、全員が重篤ではないことが発表された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
21	急性灰白髄炎	The Weekly Epidemiological Record (WER) 2016年9月9日号Vol.91, No.36/37	急性弛緩性麻痺(AFP)サーベイランスの実績及びポリオの発生について。2016年6月14日時点でWHO本部が受理したデータによると、2016年の世界におけるAFP症例は67105例であった。野生型ポリオウイルス1型(WPV1)症例23例、循環型ワクチン由来ポリオウイルス(cVDPV)症例3例が世界において発生した。ラオスにおいては、cVDPV2症例が3例報告された。
22	急性灰白髄炎	http://www.who.int/mediacentre/news/statements/2017/poliovirus-twelfth-ec/en/	2017年2月7日、ポリオウイルスの国際的拡大に関連し、International Health Regulations (IHR)のEmergency Committeeの第12回会議が開催された。Emergency CommitteeはWPVとcVDPVのデータをレビューした。cVDPVの新規アウトブレイクが2件(ナイジェリア北部のSokotoで1件、パキスタンのQuettaで1件)発見されたことが報告された。Sokotoで発見されたウイルスは、Bornoで発見されたウイルスとは関連性がなかった。
23	急性灰白髄炎	https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/575633/Emerging_infections_summary_November_2016.pdf	2016年、WPVの症例34例がアフガニスタン(12例)、ナイジェリア(4例)及びパキスタン(18例)から報告され、2015年に報告された症例数60例から減少した。
24	急性灰白髄炎	https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/582022/Emerging_infections_summary_December_2016.pdf	2016年、パキスタンでは12月21日時点でWPV1症例が計19例報告されている。2015年に報告された54例より顕著に少なく、これまで報告された年間症例数では最低であった。12月末に、Balochistan, Quettaにおける定期的な環境サンプル2件から遺伝的に関係があるcVDPV2の分離株が検出されたが、これに関連した麻痺症例は存在しなかった。
25	オルソポックスウイルス感染	Clin Infect Dis. 2017;.:DOI:10.1093/cid/cix219.	米国アラスカにおける新規のオルソポックスウイルス感染症1例が報告された。患者の感染源は明確には特定されなかった。
26	オルソポックスウイルス感染	ProMED-mail 20170318.4910178	米国アラスカにおける新規のオルソポックスウイルス感染症1例が報告された。患者の感染源は明確には特定されなかった。
27	ジカウイルス感染	Blood. 2017 Jan 12;129(2):263-266.	マルティニーク島におけるジカウイルス(ZIKV)の検出についての報告。マルティニーク島においてZIKVの流行時、供給血液の約2%にZIKV RNAが検出された。ZIKV RNAが検出されたドナーのうち45%が無症候であった。無症候の者も含め、治療を必要としなかった者の割合は80%~85%であった。また、ウイルス血症の無症候期間は感染数累積シミュレーション解析により約6日であると推定された。
28	ジカウイルス感染	Emerg Infect Dis.23(2017)863-865	免疫が正常なZIKV感染患者の全血中と血漿中におけるZIKV RNA検出の継続日数に関する報告。全血中では平均22日、血漿中では平均10日継続してZIKV RNAが検出された。
29	ジカウイルス感染	Eurosurveillance, Volume 22, Issue 2	中欧のZIKVの伝播実験。Culex pipiens pipiens(トビイロイエカ)、Culex torrentium, Aedes albopictus(ヒトスジシマカ)に、ZIKVを含む血液を与え感染させ、湿度80%、温度18°C又は27°Cで飼育した。感染後14日目及び21日目に唾液分泌物を採取し感染性ウイルス粒子の存在を確認した。さらに、全ての蚊についてZIKV RNAの測定を行った。この結果、全ての種類の蚊からZIKV RNAを検出した(感染率:3~72%)。感染率及びウイルス力価はCulex属と比較してAedes属の方が大幅に高かった。ウイルス量は飼育温度が高い方が多かった。Culex属についてはZIKVのベクター能力を示すものはなかったが、Aedes属では27°Cの飼育温度でのみウイルス伝播能力を示した。
30	ジカウイルス感染	N Engl J Med. doi:10.1056(2017)NEJMOal1613108.	ZIKV感染者を対象とした前向き研究で、血清中からZIKV RNAが検出されなくなるまでの中央値及び95パーセンタイルは、それぞれ14日と54日であった。
31	ジカウイルス感染	TRANSFUSION.57(2017)720-721	血漿分画製剤の製造工程に広く導入されているウイルス不活化・除去工程がZIKVの不活化・除去に有効であることをウイルスバリデーションスタディーにより検証した。ZIKVは熱処理、有機溶媒/界面活性剤処理及び低pHインキュベーションによる不活化を受けやすく、20nmウイルス除去フィルターによって除去されることを確認した。

ID	感染症(PT)	出典	概要
32	ジカウイルス感染	http://www.cdc.gov/mmwr/volumes/66/wr/mm6613el.htm?s_cid=mm6613el_w/2017/04/04	2016年1月15日～12月27日の調査期間中、U.S. Zika Pregnancy Registry (USZPR)に報告された妊婦のうち、ZIKV感染の可能性を示す臨床結果を有する胎児または乳児が972例報告された。そのうち51例で先天性異常が報告された。先天性ZIKV感染の全ての臨床スペクトルは現在明らかでないため、妊娠中における最近のZIKV感染の臨床検査値を有する女性から生まれた全ての乳児は、包括的な新生児の身体検査及び聴覚スクリーニングに加え、出生後の神経画像検査及びZIKV検査を受けるべきである。
33	ジカウイルス感染	www.cdc.gov/mmwr/volumes/66/wr/mm6608a4.htm?s_cid=mm6608a4_w/2017/03/03	米国CDCの研究で、ZIKV感染の可能性がある妊婦において特定の先天性欠損が20倍増加したと推定された。小頭症及びその他の中枢神経系の障害を含む先天性欠損は、南北米でZIKV感染が伝播する以前の2013年～2014年では出生1000例に対し3例であったが、2016年では妊娠1000例に対し60例であった。
34	ヒトT細胞リンパ親和性ウイルス1型感染	Lancet Infect Dis. 11(2016)1246-1254	日本の青少年及び成人献血者におけるヒトT細胞白血病ウイルス1型(HTLV-1)の年間新規感染者数を推定するための全国的後方視的コホート解析。HTLV-1に対する血清反応が陰性であった供血者3,375,821人(男性2,100,915人、女性1,274,906人)を対象とし、観察期間4.5年(中央値、IQR2.3～5.8)の間に、532人(男性204人、女性328人)にHTLV-1抗体の陽転が認められた。女性における発生密度は男性と比較して有意に高かった(男性2.29/10万人年、95%信頼区間(CI)1.99～2.62、女性6.88/10万人年、95%CI6.17～7.66、 $p<0.0001$)。年間新規HTLV-1感染者数の推定値は4,190人(男性975人、女性3,215人)であった。
35	乳頭腫ウイルス感染	Arch Virol. 161(2016)1569-1577	ブラジルにおいて、乳牛の乳頭の疣贅に存在するパピローマウイルス(PV)の種類を特定するために、3州の13の牧場の24頭の乳牛から採取した40の乳頭病変をPV L1遺伝子PCRによって評価した結果、ウシ乳頭腫に関連する新型と推定されるPV型PBV/BR-U6L6及びBPV/BR-U6L7が初めて報告された。
36	ウイルス感染	CDC Newsroom, For Immediate Release: Friday, January 20, 2017	米国のラット繁殖施設においてソウルウイルス感染のアウトブレイクが発生した。齧歯動物の繁殖を行っていたウィスコンシン州のブリーダーが、ソウルウイルスによる感染症であることが確認された。同様に齧歯動物を扱っていた近親者1例も、検査によりソウルウイルス陽性と判定された。追跡調査により、イリノイ州に所在する2つのラット繁殖施設において、ソウルウイルス感染例が新たに6例確認された。米国において、野生のラットにおけるソウルウイルス感染の報告はこれまでもあったが、ペット用ラットに関連することが確認されたアウトブレイクは今回が最初である。
37	ウイルス感染	J Virol. 91(2017) e01879-16	米国でブタ皮膚炎腎症候群(PDNS)様症状で死亡した雌ブタにおいて、新規のブタサーコウイルス(PCV3)が検出された。米国のブタにおける流行が示唆された。
38	アルツハイマー病 パーキンソン病	JAMA. 317(2017)123-124	レトロスペクティブな研究により、スウェーデン及びデンマークの患者約150万人の診療記録を用いて、献血後に神経変性疾患を発現したドナーからの輸血を受けた患者において、同様の疾患への罹患の有無についてレトロスペクティブな調査が行われた。その結果、輸血により、アルツハイマー病及びパーキンソン病が伝播する根拠は認められなかった。
39	クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis. 23(2017)893-897	英国において、血液凝固第Ⅷ因子製剤及び輸血用血液製剤の投与歴のあるフォンヴィルブランド病患者1例並びに血液凝固第Ⅸ因子製剤及び輸血用血液製剤の投与歴のある血友病B患者1例が孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)を発症した。血漿分画製剤による治療とsCJD発症との関連は立証されていない。
40	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20170119.4775368	2017年1月18日、アイルランド Department of Agriculture, Food and the Marine は、農場で死亡した家畜を対象としたサーベイランスにより、18歳齢のウシ1頭における非定型牛海綿状脳症(BSE)症例を確認した。
41	クロイツフェルト・ヤコブ病	Weekly Disease Information 2017年1月26日号 Vol.30 No.4	2017年1月18日、アイルランド Department of Agriculture, Food and the Marine は、農場で死亡した家畜を対象としたサーベイランスにより、18歳齢のウシ1頭における非定型BSE症例を確認した。
42	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	N Engl J Med. 376(2017)292-294	英国においてプリオン蛋白遺伝子(PRNP)のコードン129にヘテロ接合性を有する変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)症例が確認された。患者のPRNPコードン129の遺伝子型はMV(メチオニン-バリリン)型であった。これまでにvCJDが確定した全症例は、PRNPコードン129のMM(メチオニン-メチオニン)型であった。本症例が、PRNPコードン129の遺伝子型はMV型を有するヒトにおいて、vCJD流行の第二波の開始を示唆するかどうかは不明である。

ID	感染症(PT)	出典	概要
43	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20170311.4894368	2017年2月23日付けで、アルテへの中央獣医学研究所は、国家TSEサーベイランスプログラムによって、14歳齢のウシ1頭における非定型BSE症例を確認したことを公表した。
44	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Weekly Disease Information 2017年3月 16日号 Vol.30 No.11	スペインの14歳齢の交雑牛1頭において非定型BSE-L型が確認された。2017年2月23日付けで、Algeteの中央獣医学研究所は、国家TSEサーベイランスプログラムによって、14歳齢のウシ1頭における非定型BSE症例を確認したことを公表した。
45	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/590629/Emerging_infections_summary_January_2017.pdf	英国においてプリオン蛋白遺伝子(PRNP)のコードン129にヘテロ接合性を有する変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)症例が確認された。患者のPRNPコードン129の遺伝子型はMV(メチオニン-バリン)型であった。これまでにvCJDが確定した全症例は、PRNPコードン129のMM(メチオニン-メチオニン)型であった。本症例が、PRNPコードン129の遺伝子型はMV型を有するヒトにおいて、vCJD流行の第二波の開始を示唆するかどうかは不明である。
46	ブドウ球菌性敗血症	Transfusion 2017(53) 1299-1303	カナダにおけるスクリーニングでStaphylococcus aureus(S.aures)が偽陰性であった放射線照射済バフィーコート血小板プール(PC)輸血による敗血症症例。急性骨髄性白血病の患者に対し、PC輸血を中心静脈カテーテルで輸血した。PCの2/3を輸血後、固形物による輸液ラインの閉塞及び大きな繊維状凝血塊を認め、輸血を中断した。その後ただちに、赤血球(RBC)1単位の輸血が開始されたが、RBCの1/3を輸血後、患者が悪寒、硬直、低血圧、悪心及び嘔吐をきたし、RBCの輸血も中断された。当該PCおよびRBCは、院内にて細菌の有無に対する検査が実施された。当該PCのドナー4名は過去の輸血反応には関与しておらず、全員最近の歯科治療、皮膚感染及び全身性疾患の徴候を否定した。中心静脈カテーテル及びPC由来サンプルからS.auresの存在を確認した。一方RBCの細菌培養検査結果は陰性であった。走査型電子顕微鏡法より、PCからブドウ球菌細胞により形成されたバイオフィルムを認めた。また表現型及び遺伝子解析の結果、患者サンプル及びPCから同一の遺伝子型のS.aures株が単離された。本報告は、主要な汚染菌としての病原性S.auresの報告の増加並びに汚染製剤の阻止及び敗血症となる輸血反応を予防するために不可欠な血液製剤における輸血前目視検査の重要性を明らかにするものである。
47	ウシ結核	ProMED-mail 20161217.470614	カナダにおけるウシ結核の報告。Albertaにおいてウシ1頭におけるウシ結核が報告された後、2016年10月後半にAlberta南東部の数十の牧場におけるウシの隔離が実施された。以降、本アウトブレイクは、Alberta及びSaskatchewanの農場のウシ約26000頭の隔離に至った。
48	コレラ	The Weekly Epidemiological Record (WER) 2016年9月23日 号Vol.91、No.38	2015年、WHOへ報告されたコレラ症例数の累計は死亡例1304例を含む172454例で、2014年と比較して9%減少した。死亡例を報告したのは23カ国であり、アフリカにおいて937例、アジアにおいて30例、南北米において337例が発生した。アフガニスタンにおいては、死亡8例を含む58064例が報告された。
49	細菌感染	Transfusion. 57(2017)657-660	オランダにおける輸血用血小板保存メディウムと濃厚血小板(PLT)輸血後の輸血細菌感染症(TTBI)の関連性の数値化。血漿保存PLTと比較し、血小板添加液保存PLTの輸血に伴うTTBIの発生率は4倍であった。
50	病原体耐性	Int J Infect Dis. 54(2017)77-84	コリスチン耐性遺伝子mcr-1に関する総説。mcr-1遺伝子にコードされるプラスミド媒介コリスチン耐性は、中国で初めて報告され、以後、ヒトと動物において複数報告されている(米国及び中国におけるヒト及びブタ、カナダにおけるヒト及びウシ並びにベルギーにおけるウシ及びブタ等)。mcr-1は大腸菌、肺炎桿菌、サルモネラ及び赤痢菌等で確認されており、他剤への耐性を保ちつつヒトからヒトに伝播可能であることが報告されている。ブタ及びウシの大腸菌からは、mcr-1との遺伝子相同性が76.7%のmcr-2が分離された。